

第3次袋井市総合計画 基本構想(素案)

【ご確認いただくにあたっての留意事項】

- 本資料は、第3次袋井市総合計画 基本構想を取りまとめるにあたり、様々な方からご意見を頂くための「素案」となります。
- 基本構想は、皆さまのご意見を踏まえ、趣旨を損なわない範囲で、より明確で分かりやすい文章や表現方法に修正する場合があります。また、より内容の理解を深めるため、イラストなどを追加する場合があります。
- 最終的には、第6回袋井市総合計画審議会の議論を経て、令和7年2月に基本構想を策定する予定です。
- 本資料の19ページまでは、基本構想策定にあたり現状などを整理したもので、基本構想に相応するものではありませんが、総合計画全体の序論として考え方などを継承する部分です。
基本構想となる「まちの将来像」と「まちづくりの基本目標」は、20・21ページをご覧ください。

1.全体概要

2.第3次総合計画の構成と策定体制

3.総合計画審議会による現状把握

1. 社会潮流
2. 袋井市の強み
3. まちづくりの課題(弱み)

4.市民の意見

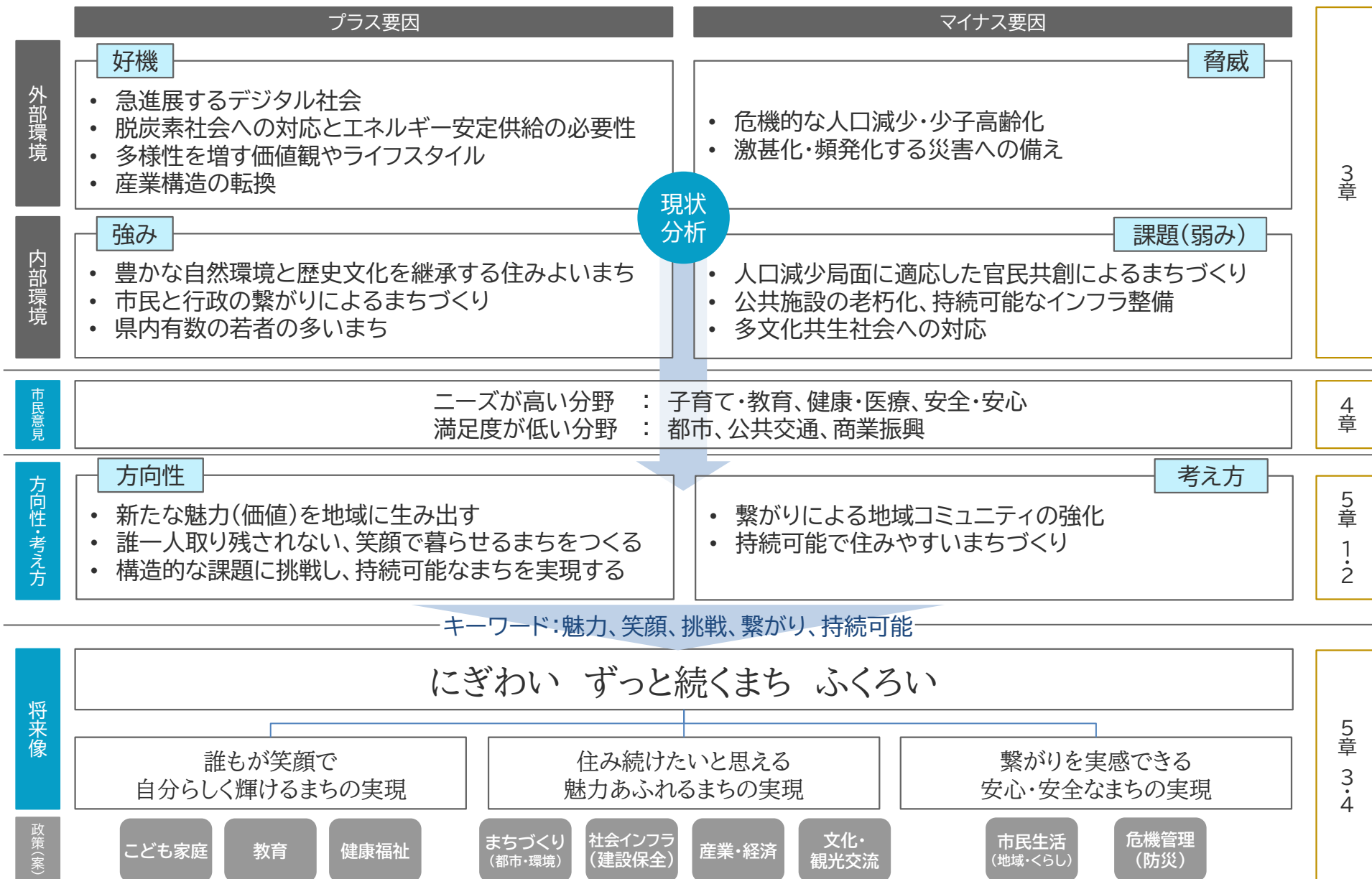
1. ふくろいスマイル座談会
2. 市民意識調査

5.まちの将来像とまちづくりの基本目標(素案)

1. 第3次総合計画の方向性について
2. これからのまちづくりの考え方
3. まちの将来像(素案)
4. まちづくりの基本目標(素案)

6.基本構想(素案)に対する総合計画審議会での意見

第3次袋井市総合計画基本構想(素案) 全体概要



1.全体概要

2.第3次総合計画の構成と策定体制

3.総合計画審議会による現状把握

1. 社会潮流
2. 袋井市の強み
3. まちづくりの課題(弱み)

4.市民の意見

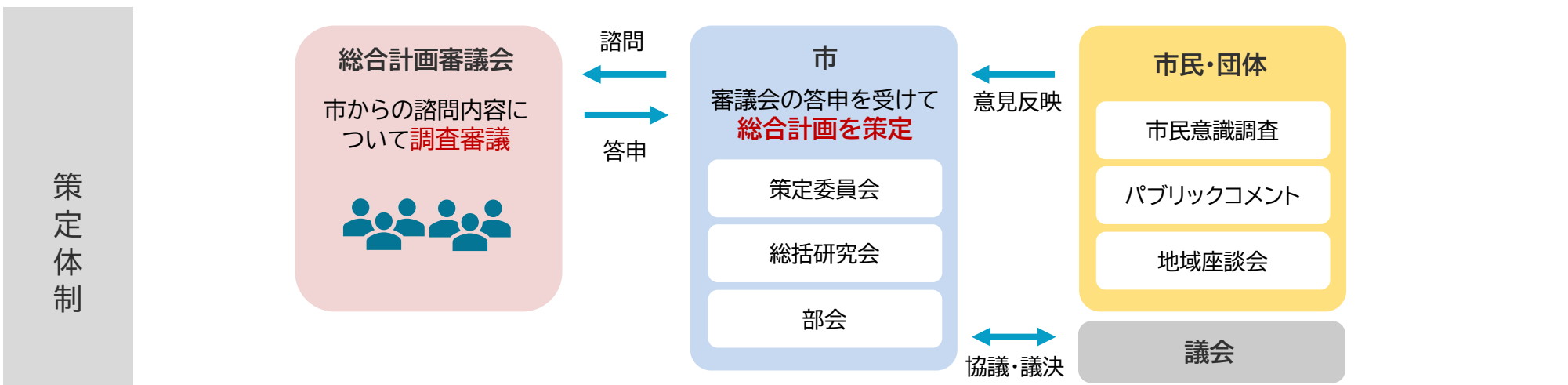
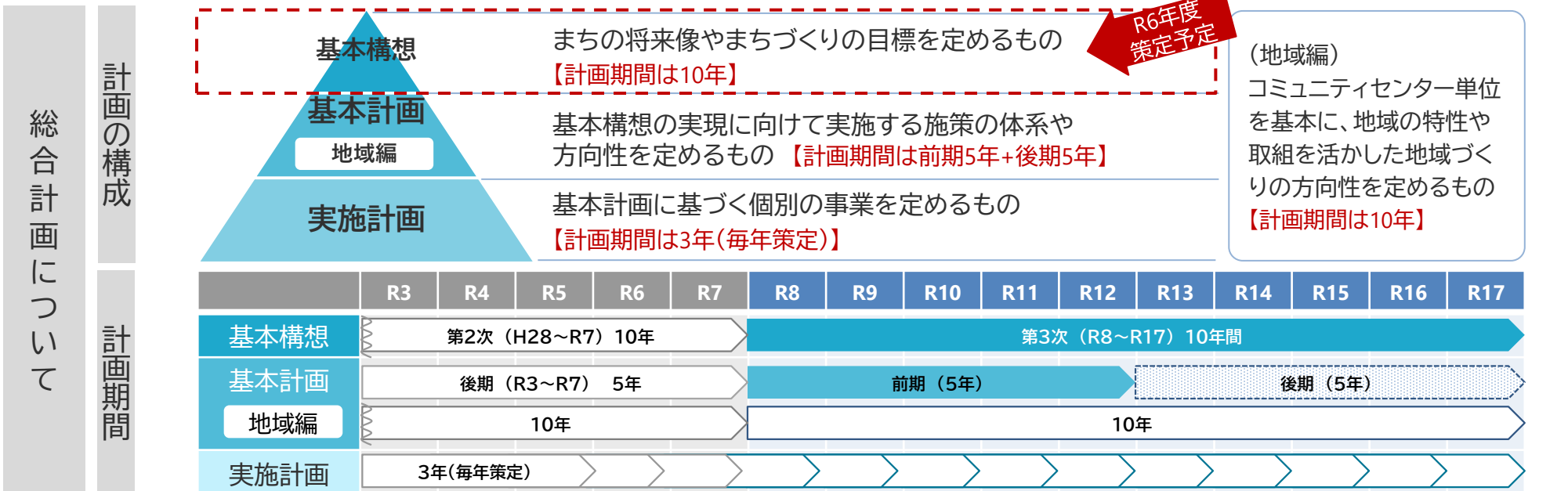
1. ふくろいスマイル座談会
2. 市民意識調査

5.まちの将来像とまちづくりの基本目標(素案)

1. 第3次総合計画の方向性について
2. これからのまちづくりの考え方
3. まちの将来像(素案)
4. まちづくりの基本目標(素案)

6.基本構想(素案)に対する総合計画審議会での意見

第3次総合計画の構成と策定体制

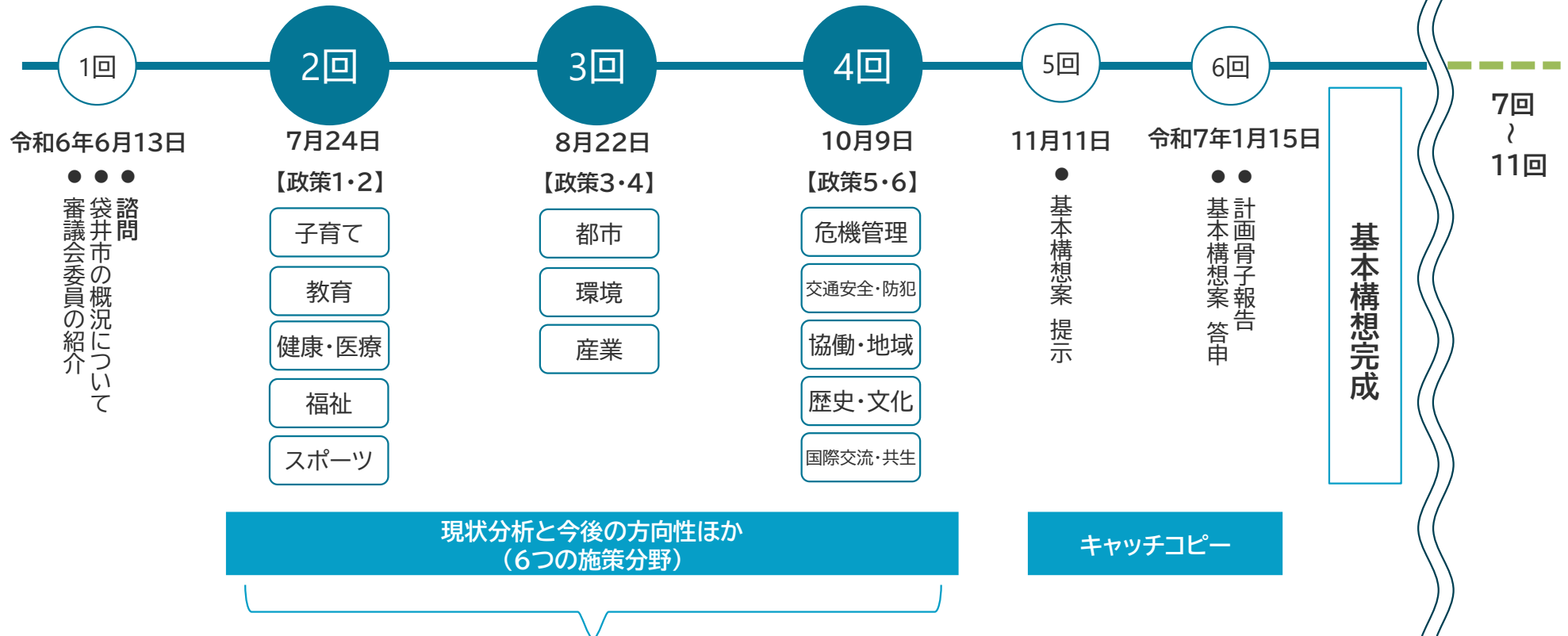


総合計画は、市の諮問に応じた「総合計画審議会」、「策定委員会」をはじめとした庁内組織、「市民意見」などから、総合的な検討を踏まえ、最終的に「議会」の議決を経て策定されます。

総合計画審議会の進捗について

- 総合計画審議会は、基本構想(案)の答申までに6回、基本計画(案)の答申までに5回開催する予定です。
- 第2回～第4回では、現行計画の6つの政策について、各回2つの政策分野ごと議論を実施しました。

基本構想に係る審議



議論が終了した政策分野から庁内に各部会を設置し、基本計画策定に向けた検討を開始

1.全体概要

2.第3次総合計画の構成と策定体制

3.総合計画審議会による現状把握

1. 社会潮流
2. 袋井市の強み
3. まちづくりの課題(弱み)

4.市民の意見

1. ふくろいスマイル座談会
2. 市民意識調査

5.まちの将来像とまちづくりの基本目標(素案)

1. 第3次総合計画の方向性について
2. これからのまちづくりの考え方
3. まちの将来像(素案)
4. まちづくりの基本目標(素案)

6.基本構想(素案)に対する総合計画審議会での意見

現状把握の考え方

総合計画審議会では、現行計画の6つの政策分野ごと、袋井市の現状について、

好機、脅威、強み、弱み の4要素で整理を行ってきました。

本市の**強み**を活かし、**好機**に対応しながら、課題(**弱み**)を克服するとともに、**脅威**に立ち向かうといった考え方に基づき、

次期総合計画における、「**まちの将来像**」や「**まちづくりの基本目標**」を検討いたします。



<第3回袋井市総合計画審議会 意見交換@袋井新産業会館キラット>

次頁からは、総合計画審議会における政策分野ごとの議論の内、ご意見の背景含め、とりわけ考慮すべき好機、脅威、強み、弱みをまとめています。

社会潮流（好機・脅威）【1/2】

本市を取り巻く社会の潮流として、**好機・脅威**を整理しています。

1. 危機的な人口減少・少子高齢化(脅威)

我が国の総人口は、平成20(2008)年の1億2,800万人をピークに減少局面に入り、国立社会保障・人口問題研究所の推計※1によると、令和52(2070)年には、8,700万人にまで減少すると予測されています。

0～14歳人口(年少人口)は、令和2(2020)年の1,503万人から、令和52(2070)年には797万人となり、65歳以上人口割合(高齢化率)は、令和2(2020)年の28.6%から、令和52(2070)年には38.7%に達するとされ、経済や都市活力の低下など、様々な問題を引き起こすことが懸念されています。

総合計画審議会
での主要意見

人口減少・少子高齢化の更なる進行が危惧される／出生数や児童数、結婚件数の減少している／人口減少に伴い、人材不足や市場の縮小が起ることサービス提供が困難になる／人材の高齢化による成り手・担い手不足／すべての業界で労働人口が減少する

2. 急進展するデジタル社会(好機)

近年、AIやビッグデータなど急速なデジタル技術の進展により、経済活動や日常生活のあらゆる場面でデジタル化が進んでいます。

人口減少や少子高齢化、複雑かつ多様化する課題を解決し、持続的にまちを発展させていくためには、デジタル技術の活用が必須とされていますが、一方で、デジタルを活用できる人とそうでない人との格差が問題視されており、誰一人取り残されない優しいデジタル化が求められています。また、コロナ禍を経て、行政運営におけるデジタル化の遅れが顕在化したことを受け、行政サービスのデジタル化が加速しています。

総合計画審議会
での主要意見

デジタル技術によってつながり方が多様化している／教育・健康・介護・福祉・インフラ整備・農業・地域活動など幅広い分野においてデジタル技術・データの活用が推進されている／情報にアクセスできる人とできない人の情報格差が生じている

3. 激甚化・頻発化する災害への備え(脅威)

近年、災害級の猛暑や台風・豪雨による水害の激甚化・頻発化が叫ばれており、地球温暖化の進行に伴う気候変動の影響で、この傾向が継続することが見込まれています。また、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震など、近い将来の大規模な地震発生リスクが指摘されています。

このような大規模な自然災害への備えとして防災・減災対策が進められていますが、ハード整備による対応には限界があり、災害から生命や財産を守るため、住民一人ひとりの防災意識の向上、地域や企業との連携など、ソフト面での対応が求められています。

総合計画審議会
での主要意見

地球温暖化に伴い、自然災害の発生が頻発、激甚化している／「自助」の重要性が震災を通じて国民に浸透した／水災害激甚化を受けて「流域治水」が推進されている／災害への危機意識が低下している／大雨の年間発生回数が増加している

※1 出典：日本の将来推計人口(令和5年度推計)【国立社会保障・人口問題研究所】

社会潮流（好機・脅威）【2/2】

本市を取り巻く社会の潮流として、**好機・脅威**を整理しています。

4. 脱炭素社会への対応とエネルギー安定供給の必要性(好機)

令和2(2020)年、政府は令和32(2050)年までに、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、実質ゼロを目指す「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、脱炭素社会の実現に向けた取組を加速させています。また、国際情勢の緊迫化により世界のエネルギーや食料の需給リスクが顕在化し、我が国におけるエネルギーや食料の安定供給の必要性が高まっています。

これらのことを踏まて、地方公共団体においても、温室効果ガスやごみの削減、安定的で持続可能な再生可能エネルギーの導入など、環境面で持続可能な社会を実現するための取組が求められています。

総合計画審議会
での主要意見

国はカーボンニュートラルを宣言している／国は再生可能エネルギーの普及を促進している／サーキュラーエコノミーが注目されている／世界全体では温室効果ガス排出量が増加傾向にある／世界各地で気象災害、異常気象が発生している

5. 多様性を増す価値観やライフスタイル(好機)

令和の時代となり、社会やテクノロジーの進化、国際化に伴って人々の価値観やライフスタイルは益々変化してきています。加えて、ミレニアル世代やZ世代※1が社会の中で重要な役割を果たすようになり、この変化を加速させています。

このような価値観やライフスタイルの多様化によって、自身に最も適した生き方を選択しやすい社会となった一方、誰も排除されず社会に参画できる社会的包摂や住居や働き方、学習の仕方などを自由に選択できる環境の整備など、社会的な対応が求められています。

総合計画審議会
での主要意見

国は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を推進している／病気の人、いかに快適に過ごせるか価値観が変化している／元気でアクティブなシニアが増加している／eスポーツやアーバンスポーツ等新しいスポーツが広がっている／コロナ禍を契機とした二地域居住等

6. 産業構造の転換(好機)

国際情勢の不安定化やコロナ禍を経た消費者ニーズの変化、デジタル化・カーボンニュートラルへの対応など、産業を取り巻く環境は日々変化し続けています。例えば、自動車産業では、EV化等の潮流により産業構造が大きく転換しています。

こうした不確実性の高い時代において、地域の産業を成長させ、まちが持続的に発展するためには、地域の「稼ぐ力」の向上はもちろん、「所得の循環構造」を形成し、「住民の所得」向上に繋げていくことが求められます。

総合計画審議会
での主要意見

製造業の業況は、大企業・中小企業ともに改善傾向にある／コロナ禍以降、海外からの誘客は回復傾向にある／国際的な原料価格の上昇や、気候変動による自然災害の激甚化等、産業へも大きな影響を及ぼす事象が発生している／中小企業・小規模事業者のDX導入が遅れている

※1 「ミレニアル世代」は、おおむね1980年代前半から1990年代半ばまでに生まれた人々を指し、「Z世代」は、おおむね1990年代半ばから2010年代序盤に生まれた人々を指します。

袋井市の強み

過去の発展とともに本市が積み重ねてきた地域固有の「歴史文化」、「資源」や「魅力」など、今後のまちづくりに生かしていきたい「袋井市の強み」を整理しています。

1. 豊かな自然環境と歴史文化を継承する住みよいまち

本市は、遠州灘をはじめ太田川や原野谷川、小笠山等の豊かな自然資源、遠州三山や東海道袋井宿等の歴史・文化的資源に恵まれるとともに、先人から継承した美しい水田や茶園等の農村環境、地域に活力をもたらす多種多様な企業の立地により、誰もが住み良い田園都市へと発展してきました。

また、太平洋に面した全国的にも日照時間が長い地域とされ、東海道新幹線・東海道本線・東名高速道路・国道1号・国道150号など主要交通路が横断するなど、気候条件・交通条件にも大変恵まれた地域です。

総合計画審議会
での主要意見

お茶や野菜など、「食」に恵まれた地域／温暖な気候で歩きやすい平坦な土地、施設の充実など運動しやすい環境／交通アクセスが良く土地利用がしやすい地形／海、山、川があり、自然環境と歴史的資源、ブランド化できる地域資源が豊富／外国人に選ばれるまち(人・仕事・地形)

2. 市民と行政の繋がりによるまちづくり

本市は、明治22年市町村制施行時の14町村がその後の合併を経て誕生しました。現在は、概ねこの14町村ごとに各地区のコミュニティセンターが設置されており、当該センターを拠点として市民と行政が協働で特色ある地域づくりに取り組むための「まちづくり協議会」が組織されています。地域住民が主体となり、多様化する地域課題に柔軟に対応するための様々な活動を行っていることは、地域コミュニティの希薄化が叫ばれている昨今において、本市の大きな「強み」と言えます。

総合計画審議会
での主要意見

地域・学校の繋がりが強い／地域行事・コミュニティ活動が活発で孤独を感じない環境／様々な分野を支える人材が地域内にいる／地域の皆で景観をつくっている／地域に根付いたボランティア組織が交通安全・防犯を推進している／自治会活動が充実している

3. 県内有数の若者の多いまち

令和5(2023)年データ※1によると、本市の年少人口割合は13.8%と県内23市で最も高く、老年人口割合も25.6%と最も低いです。また、令和2(2020)年の合計特殊出生率※2は県平均1.39を上回る県内2位の1.56を記録しており、県内有数の「若いまち」としてのポテンシャルを秘めています。この背景には、企業誘致や商業施設の進出、宅地供給などバランスの良い都市形成がありますが、今後、全国的な少子高齢化の影響が避けられない中、これまで以上に子育て世代に選ばれるまちづくりを進めていく必要があります。

総合計画審議会
での主要意見

住みやすく、土地も安く、豊かで、よい暮らしができる／区画整理によって都市を形成し、人口を維持してきた／新しい農作物にチャレンジする若い人がいる(ICTを活かした農業の事例も多い)

※1 出典:市区町別年齢3区分別人口割合(令和5年10月1日現在)【令和5年静岡県推計人口年報】

※2 出典:人口動態保健所・市区町村別統計(令和2年7月)【厚生労働省】

まちづくりの課題（弱み）

克服することで、本市の可能性を広げることができる「まちづくりの課題(弱み)」を整理しています。

1. 人口減少局面に適応した官民共創によるまちづくり

これまで人口増加を前提にまちづくりを進めてきた本市も、将来的な人口減少・少子高齢化が確実視される中、労働力不足や地域活力の低下、社会保障の増大といった様々な課題に直面します。また、これらの影響に加え、職員減少や財政逼迫等の組織的なりり資源不足により、地方公共団体単独では、従来のサービス提供を維持できなくなることが懸念されます。

このような人口減少局面においても地域を持続的に発展させていくためには、民間事業者との対話により、地方公共団体として取り組むべき地域・社会課題解決に民間事業者が持つビジネスの視点を取り入れながら、双方のノウハウ・データ・ネットワーク等を活かし、新たな価値の創出による課題解決に取り組んでいくことが重要となります。

総合計画審議会
での主要意見

市民活動団体が多数存在している／暮らし良さの実現に向け、身の丈にあった連携で叶える官民共創の取組を行っている(学校を接点とした共創の取組の試行など)／市民活動団体とのマッチングが出来ていない

2. 公共施設の老朽化、持続可能なインフラ整備

昭和50(1975)年代頃に多くの公共施設が集中的に建設されましたが、現在これらの施設は老朽化が進んでおり、近い将来、大規模な改修や建て替えが必要となるなど、維持管理コストが増大することが予測されます。

このような状況を踏まえ、公共施設等のインフラ整備を持続するためには、単なる長寿命化だけでなく、中長期的な社会情勢や人口動態を考慮した上で、不要な施設の統廃合や再配置を進め、総量削減を図りながら効率的な資源活用をするなど、公共施設の最適化が必要となります。これにより、新たな需要や都市基盤の整備に向けた投資が可能となり、選択と集中による持続可能な都市運営を実現することができます。

総合計画審議会
での主要意見

教育施設の老朽化への対応が求められている／社会インフラの老朽化等に伴い自治体財政のひっ迫が懸念される／施設管理の効率化に向けた新たな事業への取組を行っている／内水氾濫へのハード対策が困難

3. 多文化共生社会への対応

近年、外国人市民が増加傾向にあり、2024年4月1日時点の外国人人口は5,652人で人口に占める割合は6.45%となるなど、県内23市中、外国人比率が3番目に多いです。外国人市民の年齢層は、20代・30代の若い世代が大半を占めており、地域や経済を支える一因として期待される一方、多国籍化も進んでいることから、異なる言語・文化背景を持つ住民同士が、安心して暮らせるよう、言語サポートや文化理解の促進、地域社会への参画を支援するための施策などの環境づくりが求められています。

総合計画審議会
での主要意見

外国にルーツを持つ児童・生徒などが増加している／外国人雇用環境の改善・くらしの安定が必要／外国人との言葉の壁が課題だが、多国籍化が進み、多言語対応に限界が生じている／外国人の日本人に対する親しみは73.5%、日本人の外国人に対する親しみは42.9%で差が生じている

1.全体概要

2.第3次総合計画の構成と策定体制

3.総合計画審議会による現状把握

1. 社会潮流
2. 袋井市の強み
3. まちづくりの課題(弱み)

4.市民の意見

1. ふくろいスマイル座談会
2. 市民意識調査

5.まちの将来像とまちづくりの基本目標(素案)

1. 第3次総合計画の方向性について
2. これからのまちづくりの考え方
3. まちの将来像(素案)
4. まちづくりの基本目標(素案)

6.基本構想(素案)に対する総合計画審議会での意見

ふくろいスマイル座談会の結果概要【1/2】

- 第3次総合計画 基本計画「地域編」の策定にあたり、令和6年9月から10月末の期間で、市長が自ら市内全14地区を訪問し、市民の声を聴く「ふくろいスマイル座談会」開催しました。
- 当日は、各地区の「まちづくり協議会」の役員他、多くの方にご参加いただき、人口減少や少子高齢化、子育て、防災・災害対策など幅広い分野で意見交換を実施しました。
- 各地区の開催概要は市公式Webサイト(<https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/soshiki/4/2/sougoukeikaku/12890.html>)からご確認ください。

まちづくり協議会	日時	参加人数	主な意見 (※座談会当日の意見、後日意見)
①三川	9/14(土) 10:00-11:40	43人 中学生も参加	▶地域医療体制に関する今後の展望(中学生から) ▶北部地域のにぎわいづくりの必要性 ▶情報弱者への配慮 ▶農地の利用 ▶地域公共交通の充実 ▶豪雨災害からの復旧や今後の見通し ▶子育て世代への情報発信の必要性 ▶地域と企業との災害協定内容の確認 ▶自治会活動支援のあり方
②袋井東	9/14(土) 13:30-15:15	59人	▶大和ハウス跡地を含む土地利用 ▶都市核と集落拠点をつなぐネットワーク構築 ▶指定避難所に公会堂等を加えること ▶災害時の安否確認 ▶地区内人口減少への対応 ▶自治会組織の強化 ▶大災害に備える平時のコミュニケーションの必要性 ▶遺跡の発掘と継続性 ▶まちづくりのための人材育成 ▶第2次総合計画の振り返りと広報・PRの必要性
③今井	9/14(土) 19:00-20:40	30人	▶公共交通の確保 ▶静岡理工科大学市民講座の充実・発展 ▶幼少期からの職業体験 ▶PTA組織の見直し ▶治水対策としての田んぼダムの活用 ▶広域的な災害に関する消防団を含む情報連携の必要性 ▶シニアクラブ結成の必要性 ▶アパート住民の防災対策 ▶タブレット学習の活用と工夫 ▶第2次総合計画の総括とまとめ ▶自治会役員や民生委員の選任に苦慮 ▶市全体を俯瞰した計画づくりの必要性 ▶荒廃農地の解消対策 ▶内水氾濫を想定した治水対策の必要性
④袋井西	9/19(木) 19:00-20:30	37人 高校生も参加	▶旧東海道の活性化 ▶今後の外貨獲得(税収確保)の方策は ▶空き店舗対策の必要性 ▶人が集まる場所や商業店舗などの必要性 ▶豪雨災害など新たな災害への備え ▶袋井西のまちづくりプランを策定済み ▶第2次総合計画の振り返りが必要 ▶まちおこしや防災への提案
⑤浅羽南	9/22(日) 10:00-11:40	66人	▶産業廃棄物に関する土地利用の規制誘導及び独自条例化 ▶国道150号線の実現性 ▶若者の地域内人口を増加させるための方策 ▶海プロの進捗状況と完成後の運営 ▶給食残渣の堆肥化等に関する取組 ▶浅羽南小学校の統廃合に関する今後の方向性 ▶空き事業所バンクの取組 ▶チャレンジ&スマイル精神を広める方策 ▶地区の課題(過疎化、海岸浸食、空き家・空き地)に対する対応
⑥袋井南	9/29(日) 10:00-11:40	38人	▶小野田地区の治水対策 ▶避難所の環境改善の必要性 ▶応急仮設住宅の用地確保 ▶イノシシ被害と対策 ▶自動運転など新たな地域交通の必要性 ▶図書館での住民票交付などサービス領域の拡張 ▶スポーツツーリズムの有用性 ▶見守りサービスの体制強化 ▶原野谷川の堤防草刈り
⑦浅羽西	9/29(日) 13:30-15:15	38人	▶浅羽西幼稚園の今後の方向性 ▶高齢者の生活支援の充実強化、生活支援ネットワーク ▶複合災害対策の充実強化 ▶多文化共生社会における地域課題(ごみ処理、無断駐車など) ▶二瀬橋など斜面の除草活動、ラジコン草刈り機の追加 ▶市デジタル推進計画 ▶人口減少問題

ふくろいスマイル座談会の結果概要【2/2】

まちづくり協議会	日時	参加人数	主な意見（※▶座談会当日の意見、▶後日意見）
⑧浅羽東	10/19(土) 10:00-11:30	23人	▶子どものスポーツ環境の整備検討 ▶学校活動予算減少と授業への影響 ▶小中学校体育授業の暑さ対策のための体育館へのエアコン導入 ▶凶悪事件の多発と警察と連携した防犯対策 ▶中東遠総合医療センター運営経費に充当している袋井市の予算額 ▶市の人的財産を活用した外国人との交流 ▶子どもの屋外・屋内における遊びや体験の場と「あそびの杜」の必要性 ▶浅羽地区における都市計画税の用途
⑨豊沢	10/19(土) 19:00-20:30	28人	▶自治会の高齢化と存続の危機感 ▶高齢社会における移動式の投票車や検診車の導入検討 ▶自治会における個人情報の取扱い ▶海のにぎわい創出プロジェクトの活用と袋井市の全国発信 ▶荒廃農地の広がりと農振農用地の除外 ▶誇れる眺望を活かす工夫 ▶豊富な湧水の利活用 ▶堆肥作成時の適切な対応と指導 ▶豊沢の呼称 ▶古井戸の災害時の利活用 ▶小川町の浸水被害
⑩袋井北	10/22(火) 19:00-20:40	50人 周南中学提案有	▶久野城址の魅力発信(周南中学生からの提案) ▶市のシンボルである市旗の掲揚 ▶おいしい給食の取組 ▶人口減少時代にあって市の人口維持の要因 ▶中学校部活動の地域移行と活動場所確保、指導者報酬・指導レベル ▶防災対策としての事前復興計画策定の取組 ▶外国人の安否確認 ▶自治会備蓄品の必要量の設定 ▶地域活動への中高生のチカラ活用 ▶借家の家具固定の検討 ▶地域資源を活かしたウォーキングコース整備
⑪笠原	10/23(水) 19:00-20:40	52人	▶地元の子どもが地域の幼稚園へ入園できるように ▶笠原地域への人口誘導策 ▶高齢者支援と若者世代の負担軽減 ▶人生100年時代、80歳まで働ける環境づくり ▶都市拠点までの交通手段の確保 ▶免許返納後の高齢者の移動手段の確保 ▶三沢川の氾濫対策 ▶三沢川のハザードマップ公表の進捗 ▶地域づくりの理念は「これから地域を担う若い方々が元気よく、暮らしがいいをもって住めるようなまちづくり」 ▶誰もが働きやすい包摂社会の実現 ▶デンマーク牧場の観光活用 ▶駐在所の存続 ▶少子化・高齢化対策のモデル地区づくり
⑫浅羽北	10/26(土) 10:00-11:40	30人	▶黄色いタペストリーによる災害時の安否確認と市全体への拡大 ▶災害時要支援者の避難等ソフト対策の必要性 ▶消防団活動に必要な予算の検討 ▶アプリによる災害時安否確認や高齢者見守りへの活用 ▶若い世代の各種会議やイベントへの参加策 ▶コロナ後のコミュニティと賑わいの回復 ▶現総合計画の成果と課題の明示と座談会説明資料の改善 ▶自治会活動における役員の廃止を含めた整理 ▶敬老の記念金品の検討 ▶安全安心視点での通学路の検討 ▶あそびの杜の再考 ▶空き温室の利活用検討 ▶避難路の橋梁耐震診断 ▶御城印の製作
⑬山名	10/27(日) 10:00-11:40	42人	▶不審者情報の迅速化と防犯カメラ設置 ▶災害時のボランティア登録の簡素化 ▶中小河川の氾濫リスク ▶浅羽海岸の魅力とイベント参加者数 ▶安全性の高い道路整備 ▶自治会への加入促進 ▶小規模自治会の現状把握と存続支援 ▶河川の草刈り作業 ▶あそびの杜へ防災学習機能を ▶道路整備による交流と活性化 ▶北部地域の活性化 ▶河川流下能力向上対策 ▶災害拠点施設の設備充実 ▶防犯カメラ設置 ▶自治会負担軽減
⑭高南	10/27(日) 13:30-15:15	21人 袋井南中学提案有	▶水害対策が地区の第一課題、前倒し対応を ▶耕作放棄地対策と貯留機能の確保 ▶ポンプ場完成までの水路の通水断面確保対策 ▶ポンプ場の定期点検 ▶水害安全安心宣言 ▶デジタルを活用した情報発信とスキルアップ ▶部活動の地域移行への対応策 ▶介護保険制度改正による困りごと ▶大和ハウスの跡地利用 ▶袋井駅南北出口名称(秋葉口、駿遠口)の活用 ▶まちじゅう図書館の推進と機能の充実 ▶事前復旧復興計画 ▶茶文化資料館の活用 ▶福祉の視点から施設・整備に関する提案(袋井南中学3年生からの提案)



市民意識調査(令和5年度末時点)の結果概要

- 重要度については、子育て・教育・健康・医療・安全・安心に関する取組に対し、市民のニーズは特に高く、全24取組のうち18取組が評価基準レベル(0.25)を上回った。
- 満足度については、安全・安心等の3つの取組は評価基準レベルを超える満足度を得たが、商業振興や公共交通など21取組は評価基準レベルを下回る結果となった。

<継続推進>

安全・安心や健康・医療の取組等については、重要度・満足度が共に高いことから、これらの取組の必要性や価値等が市民にも理解され、事業の内容についても市民ニーズに沿っている。

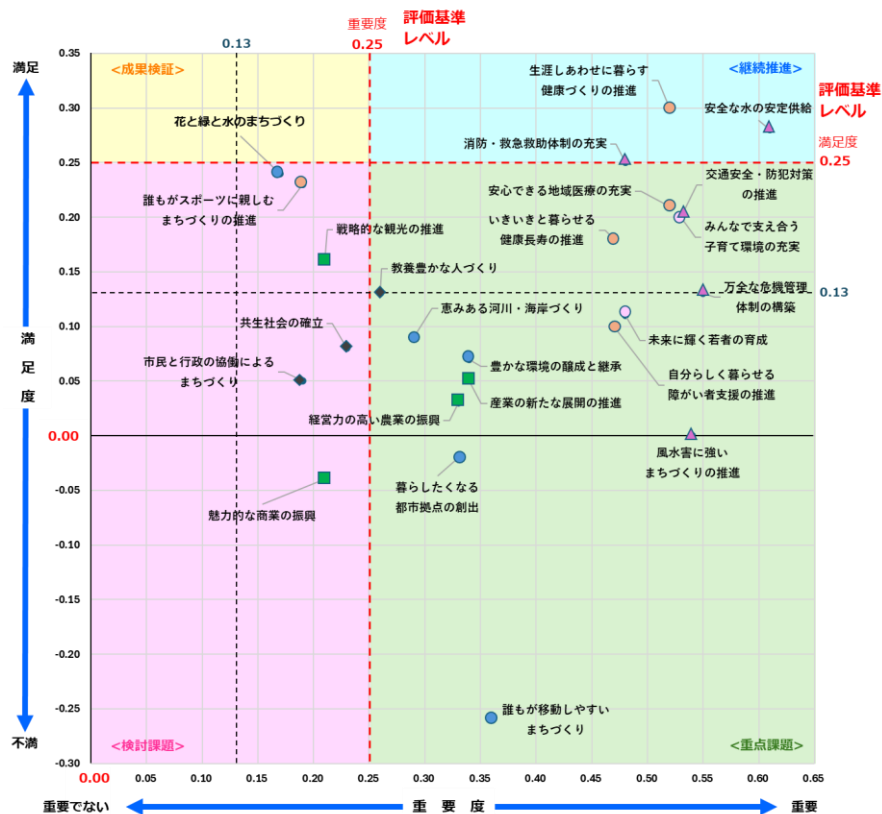
<重点課題>

公共交通や都市拠点の創出、農業・産業の取組等については、社会意識・ニーズの上昇により重要度は高いものの、満足度は低いことから、市民に対する情報発信方法や事業内容などについて、再検討する必要がある。

<検討課題>

スポーツや協働、商業の取組等については、重要度・満足度が共に低い結果になっていることから、まずはこれらの取組について、効果的な情報発信や、より多くの市民が参加する等、関わりをもつ機会を作り出していく必要がある。

取組別「満足度・重要度」散布図



政策・分野ごとの満足度

政策	取組	分野	満足度			
			0未満	0.13未満	0.25未満	0.25以上
政策1	取組1	子育て	★	★		
	取組2	教育	★			
政策2	取組1	健康・医療	★	★	★	
	取組2	健康・医療	★	★		
	取組3	健康・医療	★	★		
	取組4	福祉	★			
	取組5	スポーツ	★	★		
政策3	取組1	都市	—	—		
	取組2	都市	—	—		
	取組3	都市	★	★		
	取組4	環境	★			
	取組5	環境	★			
政策4	取組1	産業	★			
	取組2	産業	★	★		
	取組3	産業	★			
	取組4	産業	★			
政策5	取組1	危機管理	★	★		
	取組2	危機管理	★			
	取組3	交通安全・防犯	★			
	取組4	危機管理	★	★	★	
	取組5	危機管理	★	★	★	
政策6	取組1	地域・協働	★			
	取組2	歴史・文化・社会教育	★	★		
	取組3	国際交流・共生	★			

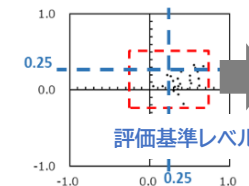
調査の概要

- 調査対象者・人数
市内在住18歳以上の男女
3,000人
- 調査期間
R6.5.17~R6.6.7
- 回答者数 1,156人
- 回答率 38.5%
- 評価分析の方法
令和6年5月に実施した市民意識調査結果(満足度・重要度)について、回答を点数化して回答人数を乗じ、縦軸に満足度、横軸に重要度として整理。

<調査点数表>

点数	満足度	重要度
1.0	満足	高い
0.5	やや満足	やや高い
-0.5	やや不満	やや低い
-1.0	不満	低い

<取組別「満足度・重要度」散布図>



成果検証
重要度:低 満足度:高
取組の在り方や必要性の検証が必要です。

継続推進
重要度及び満足度:高
現状を維持できる継続的な取組が必要です。

検討課題
重要度及び満足度:低
必要性の検証や取組内容の見直し検証が必要です。

重点課題
重要度:高 満足度:低
取組内容の改善等が必要です。

評価・分析に当たっては、常に改善意識を持ち、取組を進めて行くため、評価の基準とするレベルを0.25ポイント引き上げた「評価基準レベル」を設定しています。

1.全体概要

2.第3次総合計画の構成と策定体制

3.総合計画審議会による現状把握

1. 社会潮流
2. 袋井市の強み
3. まちづくりの課題(弱み)

4.市民の意見

1. ふくろいスマイル座談会
2. 市民意識調査

5.まちの将来像とまちづくりの基本目標(素案)

1. 第3次総合計画の方向性について
2. これからのまちづくりの考え方
3. まちの将来像(素案)
4. まちづくりの基本目標(素案)

6.基本構想(素案)に対する総合計画審議会での意見

第3次総合計画の方向性について

総合計画審議会での議論や市民意見などを踏まえ、「日本一健康文化都市」の普遍的理念に向かって、第3次総合計画の期間で「目指すまちの将来像」を描くために、**まちづくりの方向性**を整理します。

まちづくりの
普遍的理念

日本一健康文化都市
心と体の健康はもちろんのこと、家族や地域が温かく、都市と自然が調和しているなど、人もまちもすべてが健康で、住みやすく、活力あふれる都市

心と体の健康

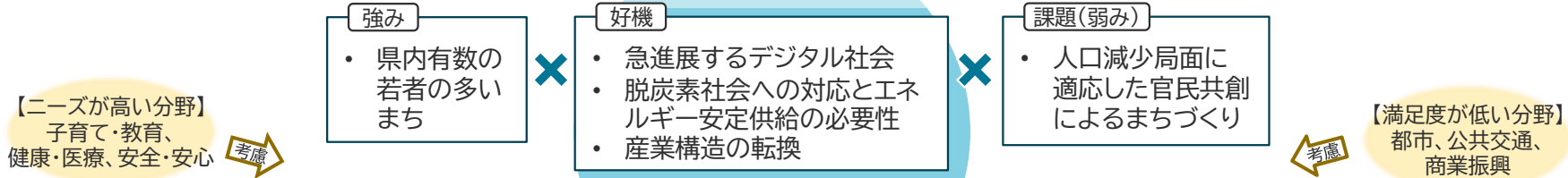
都市と自然の健康

地域と社会の健康

将来的な
都市像

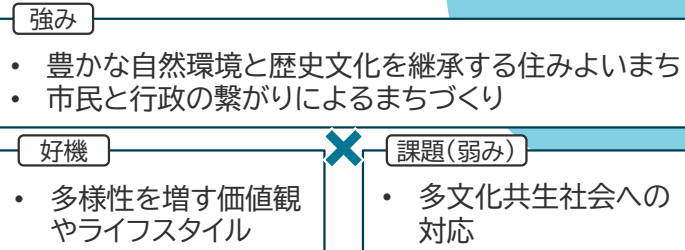
新たな**魅力**(価値)を地域に生み出す

若いまちとしてのポテンシャルを活かしながら、デジタルや脱炭素、産業構造の転換など時代の変化に対応しつつ、官民共創による新たな価値を創造することで、地域の課題を解決します。



誰一人取り残されない、**笑顔**で暮らせるまちをつくる

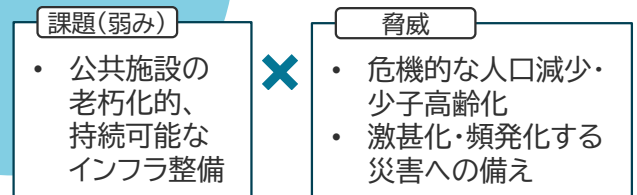
豊かな自然や歴史文化、地域の繋がりなど、まちの強みを活かし、価値観やライフスタイルの多様化、多文化共生社会に対応し、誰もが笑顔で自分らしく暮らせるまちを築きます。



重なり合う部分から、『目指すまちの将来像』を紡ぎだします

構造的な課題に**挑戦**し、持続可能なまちを実現する

持続可能なインフラ整備等を進め、人口減少や頻発する災害など、困難な課題に果敢に挑戦することで、将来に渡って暮らし続けることができるまちをつくります。



次期計画期間
のまちづくり
の方向性

【基本の考え方】
強みを活かし、
好機に対応しながら、
課題(弱み)を克服する
とともに、脅威
に立ち向かう

これからのまちづくりの考え方

第2回～第4回総合計画審議会における、各政策分野ごとの議論を踏まえ、総合計画審議会委員から、**これからのまちづくりに関する重要な視点や考え方**について、ご意見いただいた内容を取りまとめています。

全体

繋がりによる地域コミュニティの強化

- 地域コミュニティの持続可能性を向上させることが重要
- 人との繋がりを大切にし、多様な人々が共存できる温かいコミュニティを目指す
- 住民が主体的にまちづくりに関わることで、その魅力を内外に発信すべき
- ご年配や若者が活躍する・参加する地域イベントを増やすなど、まちのにぎわいを充実させる。
- 多様な繋がりを重視し、市民が自ら価値を創り高め合い、「袋井人」としての意識を醸成する

持続可能で住みやすいまちづくり

- 人口減少問題に対応するために外国人の流入と定着を促進し、共生と包摂の視点で各種施策を充実させる
- 現在の子どもたちが将来も住み続けたいと思えるよう、子育て支援の充実と、多様な働き方ができる環境を整備する
- 住みやすく持続可能なまちを目指し、緑地の確保、交通網の効率化などを図るべき
- 生活圏が重なる近隣市町と連携したまちづくりを進めるべき
- コンパクトな都市づくりを進め、次世代の負担を軽減し、持続可能な未来を築く
- 若者が地域と繋がり、余暇を楽しめるような拠点やイベント、飲食店などの充実が必要

防災・防犯対策、医療

- 「守りのまちづくり」を重視しつつ、災害対応を改善する
- 市民の災害に対する意識・知識を高めるため、リアルで迅速な情報伝達と効果的な防災訓練を実施する。
- 防災・防犯対策、医療支援体制の充実を図るべき

教育と文化の充実

- デジタルツールと教育を活用して各政策分野の課題を解決する
- 教育を中心に政策分野や活動団体が連携し、「繋がる・繋ぐ」まちを目指す
- 教育と文化の充実を図るべき

個別

(注) この他、委員の皆さまから様々なご意見をいただいておりますが、主な意見のみ要約して掲載しています。

まちの将来像(素案)

●これまでの議論から、以下のとおり第3次総合計画基本構想における「まちの将来像」を掲げます。

「笑顔」が溢れる場所や場面には活気があり、「にぎわい」を感じるものです。

「魅力」的な場には、自ずと人々が集まり、「にぎわい」が生まれます。

人々が「繋がり」を持つことでコミュニケーションが増え、新たな発想が「にぎわい」をもたらします。

「挑戦」する場には、活発なエネルギーがあり、それが集団やコミュニティに広がると「にぎわい」が伝播し、継続します。

「にぎわい」は、

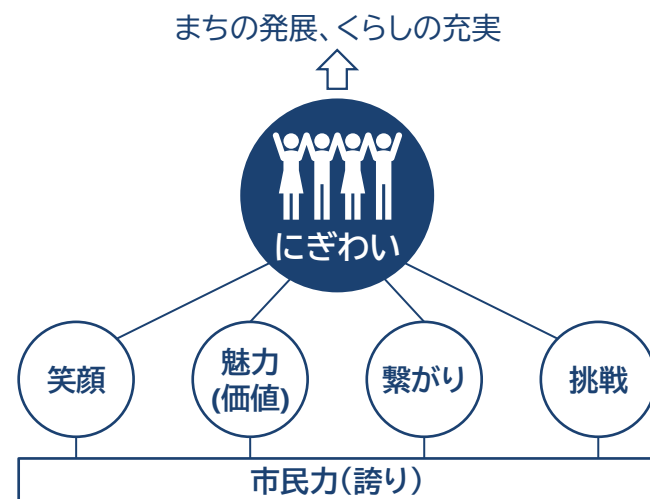
まちにとって、経済的な活性化や社会的な交流、文化の発展など、様々な面で重要であり、市民一人ひとりにとっても、生活の彩りや人との出会い、地域への愛着を与えます。

本市はこれまで、市民一人ひとりがこの地域に誇りを持ち、お互い協力し合う「市民力」によって、未来につながる豊かなまちを築いてきました。

人口減少など困難な局面でも、本市に関わるあらゆる人が、個々の特性を活かし、まちづくりに主体的に取り組むことで、

まちの「にぎわい」がずっと続く こと、そして、

にぎわうことで、「まち」がずっと続く ことを目指して、次のとおり、まちの将来像を掲げます。



にぎわい ずっと続くまち ふくろい

「まちづくりの基本目標」(素案)

「まちの将来像」から、以下のとおり「まちづくりの基本目標」を設定します。

まちの
将来像

にぎわい ずっと続くまち ふくろい

まちづくりの普遍的理念である「日本一健康文化都市」の3つの健康観を念頭に、まちの将来像を実現するための基本目標を整理

基本目標①

**誰もが笑顔で
自分らしく輝けるまちの実現**

基本目標①では、「にぎわい」を生み出す市民一人ひとりの多様な価値観や個性を尊重し、どの世代・どの背景を持つ市民も心身ともに健康で、自身の能力を発揮でき、自分らしい「暮らし」を追求できるまちの実現を目指します。

このために、子育てや教育、福祉サービス、健康促進、医療サービス等を充実させ、基本目標に向かって挑戦していきます。

基本目標②

**住み続けたいと思える
魅力あふれるまちの実現**

基本目標②では、日々の生活を支える「仕事」が、都市インフラを活用した多様な産業・交流等の経済的な「にぎわい」で成り立っていることから、本市の都市的・経済的な持続・発展による、暮らしやすく働きやすい魅力あふれるまちの実現を目指します。

このために、スマートな都市と自然環境の調和、インフラの保全、経済的な活力の向上、文化観光資源の活用による関係交流人口の拡大など、基本目標に向かって挑戦していきます。

基本目標③

**繋がりを実感できる
安心・安全なまちの実現**

基本目標③では、自身の暮らす地域に「誇り」を持ち、住民同士が繋がることで、地域コミュニティの活気や多様な交流など、社会的な「にぎわい」を生み出すとともに、地域と行政の繋がりによる、安心・安全に生活できるまちの実現を目指します。

このために、各地区での特色ある地域づくりの推進や市民活動の支援、防災・減災・救急対策の強化など、基本目標の実現に向かって挑戦していきます。

基
本
構
想

まちづくり
の基本目標

政策分野(案)

こども家庭

教育

健康福祉

まちづくり
(都市・環境)

社会インフラ
(建設保全)

産業・経済

文化・
観光交流

市民生活
(地域・暮らし)

危機管理
(防災)

1.全体概要

2.第3次総合計画の構成と策定体制

3.総合計画審議会による現状把握

1. 社会潮流
2. 袋井市の強み
3. まちづくりの課題(弱み)

4.市民の意見

1. ふくろいスマイル座談会
2. 市民意識調査

5.まちの将来像とまちづくりの基本目標(素案)

1. 第3次総合計画の方向性について
2. これからのまちづくりの考え方
3. まちの将来像(素案)
4. まちづくりの基本目標(素案)

6.基本構想(素案)に対する総合計画審議会での意見

総合計画審議会の審議状況について（第5回袋井市総合計画審議会 議事要旨）

第3次総合計画 基本構想(素案)について [まとめ]

【開催概要】

第5回袋井市総合計画審議会を、以下の通り開催しました。
第5回の意見交換では、第3次総合計画基本構想(素案)について、各委員からご意見を頂きました。

日時	令和6年11月11日(月)18時30分～20時30分
場所	袋井新産業会館キラット あきはホール
内容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 第3次総合計画基本構想(素案)について (2) 意見交換 4 事務連絡 5 閉会

【意見交換での主な意見】

- 計画づくりには抽象化と具体化が必要。抽象化の部分はまとまっているので、今後、「にぎわい」を生み出すための具体的な計画や場の設計、未来への投資が重要となる。
- 新しい時代の考え方として、デジタル化を徹底し、人間は人との繋がり部分で付加価値を高め、地域コミュニティの持続と多様性の尊重に注力するべき。
- 若者が育つ・集まるような魅力的な場を作り、人との繋がりや地域活動を持続していくための仕組みづくりが重要だと考える。
- 今後、具体的な施策に落としていく際は、数値目標を設定し、総合計画の進行状況を把握することが重要となる。まちの将来像の表現方法は、イラスト以外の手法もあるので、改めて検討すべき。
- 日ごろ、若い世代が「にぎわい」を感じているかのイメージギャップや人との繋がりに対する負担感を考慮し、全ての人に響くビジョンや具体策があると良い。
- 人口減少を緩和するため、今いる住民や移住者が楽しく過ごせて、外に出た学生や外国人も袋井市で住みたいと思えるようなまちの将来像が表現できると良い。
- 「にぎわい」という言葉は、温かみがあって受け取りやすい言葉だと捉えている。人口減少や財政難の中、より良いまちを実現するためには、市民の自主的な取り組みなど協働の考え方が重要になる。
- 「にぎわい」を作るには、女性が働きやすく活躍できるまちでなければならないと考える。また、計画の推進段階では、市民と取組の進捗状況を共有し理解を得ることが重要となる。
- 普段の袋井市の生活の中で、どこが「にぎわい」の場所かと言われると疑問を感じる。これから「にぎわい」を生み出していくなら理解できるので、言葉の使い方を再考した方が良い。
- 事務局案のまちの将来像はどここの市町でも使えてしまう。インパクトのある表現で袋井市の魅力を強調することで、さすが袋井と言われるようなものが出てくると、もっと袋井を好きになると考える。
- 「にぎわい」は世代を超えた交流・イベントなど、人との繋がりから自然に生まれるもの。
- 健康寿命トップレベルであることも袋井市の強みであるので考慮すべき。適切な言葉を用いて、スポーツや交流など楽しいまちであることが伝わってくる基本目標、街の将来像となると良い。
- これまでの議論から、繋がりがまちの活性化や市民生活の満足度に重要であると感じた。人との繋がりや交流を想起させる言葉として、「にぎわい」という言葉は良いと思う。
- 若者にとっては、人との繋がりを求めていると思う。挑戦やにぎわいがある地域に魅力を感じるので、まちの将来像に「にぎわい」が入っていることは若者目線で良い。
- 人との繋がりがないと、経済的・精神的なまちの繁栄が難しいと思うと、「にぎわい」という言葉は、なりたい袋井市を集約した良い言葉だと思う。「にぎわい」のなかで、人と人が交流しながら繁栄する袋井市であって欲しい。
- 「にぎわい」に関連する言葉として、「笑顔」、「魅力」、「繋がり」、「挑戦」とあるが、基本目標の中でも「挑戦」というキーワードが入ると良い。挑戦という言葉には、失敗しても良いというコミュニティの寛容さがあると思う。
- 特色があり、キャッチーな表現も大事であるが、市民と目標を共有することが重要であり、どのように「にぎわい」という言葉を定義づけるのかなど、本質的な議論を深めることで、袋井市ならではの言葉になると考える。